

北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科

一般選抜・社会人特別選抜 夏期日程

博士前期(修士)課程 学生募集要項

2026年度 10月入学

2027年度 4月入学



目 次

| | |
|------------------------------|----|
| 《アドミッションポリシー》 2027年4月入学者 | 1 |
| 1. 実施日程 | 4 |
| 2. 募集人員 | 4 |
| 3. 出願資格 | 5 |
| 4. 出願手続 | 8 |
| 5. 選考方法および試験科目 | 11 |
| 6. 試験会場 | 14 |
| 7. 受験上の注意 | 14 |
| 8. 合格発表 | 14 |
| 9. 入学手続 | 14 |
| 10. 入学に関する経費 | 15 |
| 11. 授業料 | 15 |
| 12. 長期履修学生制度 | 15 |
| 13. 安全保障輸出管理について | 15 |
| 14. その他 | 16 |
| 《授業科目の概要》 2027年4月入学者 | 17 |
| 《各専攻における履修コースの教育研究内容・研究指導教員》 | 20 |
| 環境システム専攻 | 21 |
| 【資源化学システムコース】 | 21 |
| 【生命工学コース（バイオシステムコース）】 | 22 |
| 【環境生態システムコース】 | 23 |
| 環境工学専攻 | 24 |
| 【機械システムコース】 | 24 |
| 【建築デザインコース】 | 25 |
| 情報工学専攻 | 26 |
| 【計算機科学コース】 | 26 |
| 【融合システムコース】 | 27 |
| 《アドミッションポリシー》 2026年10月入学者 | 28 |
| 《授業科目の概要》 2026年10月入学者 | 31 |

《アドミッションポリシー》 2027年4月入学者

※2026年10月入学者は28ページ以降参照

●環境システム専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|----------|--|--|---|---|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 資源化学システム | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする科学分野に関心を持ち、大学院で修得する知識・論理を基に、化学・環境技術者としてより高い視点から活躍を志す人 ○大学で学んだ知識を基礎とし、大学院での高度かつ専門的な知識・論理の修得を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○より専門的な科学技術を学ぶ上で基礎となる化学・環境工学に関する知識を身につけている。 ○エネルギー・環境・資源に関するより多様かつ専門的な学修のため、大学までに得た知識を応用できる力を身につけている。 ○日本語あるいは英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする諸分野における課題の本質を見抜き、その重要度・緊急性に応じて、解決策を講じる優先順位を判断する力を身につけている。 ○エネルギー・環境・資源をはじめとする諸分野における課題への解決策を、論理的に複数の可能性を考慮した上で導き、それを他者に明確に伝える力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする科学分野に強い関心を持ち、多角的・総合的な視点から、自己の向上を志して、積極的に学ぶ意欲と行動力を持っている。 ○自己の専門・非専門を問わず、他者との協議・討論を通して課題解決の手法を見出し、協働により課題解決ができる力を身につけている。 |
| 生命工学 ※ | <ul style="list-style-type: none"> ○化学と生物学を基盤とした、医療・生命・環境などに関する高度な専門的知識の習得を目指している人 ○医療・生命・環境などの分野における国際的な場で活躍できる高い能力を身につけ、社会に貢献したい人 | <ul style="list-style-type: none"> ○生命工学に関する専門的知識を獲得する上で必要な生命科学、物質科学、環境工学に関する基礎学力を有している。 ○生物・化学・物理実験・調査、数理解析などを通して、健康、環境や生態系に配慮しながら技術開発を進める基本的技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○医療・生命・環境などの分野における様々な課題を理解し、思考発展させ、得られた結論を適切な方法で表現する能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○医療・生命・環境などの分野における諸問題に対して、他者と協力して相互に啓発し合いながら課題解決を図る姿勢を有している。 ○多様かつグローバルな視点から、社会に貢献しようとする意欲を持っている。 |
| 環境生態システム | <ul style="list-style-type: none"> ○地域やアジア諸国をはじめとする発展途上国における環境社会システム構築のために活躍できる高度専門職業人および研究者を目指している人 ○持続可能な社会構築のため高度な専門的知識の習得を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境調査、環境計画、生態系管理の基礎となる自然科学および数理分野の基礎的学力を有し、環境社会や自然共生社会の構築に寄与できる創造的・実践的知識の素養を持っている。 ○社会・環境フィールド調査、環境シミュレーション、環境マネジメントに関わる専門的スキル・手法を使って問題を解決する能力の素養を持っている。 ○日本語あるいは英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○現実の環境問題に柔軟に対応し、地域・国土のみならず国際環境社会の中で広い視野をもって問題に対処できる思考力と判断力の素養を持っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境問題に関わる資源、エネルギー、自然生態系、経済、経営などの分野にも関心を持ち、高度な研究を実践する素養を持っている。 ○地域や企業、行政など関係する機関と協力して環境問題の解決に自律的に取り組む素養を持っている。 |

※バイオシステムコースは、2027年4月より「生命工学コース」へ名称を変更します。

●環境工学専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|--------|--|---|--|--|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 機械システム | <ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷の低減と経済発展の両立を“持続可能な開発”と捉えるとともに、グローバルな視点を持って活躍できる機械技術者・研究者を目指している人 ○機械工学に関する高度な専門性を身につけるための努力を惜しまない人 ○創造力と自主性を備え、先端研究分野に挑戦する意欲を持っている人 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学分野の基礎科目を修得しており、より専門的な知識と技術を高めるための基礎学力と適性を有している。 ○機械技術者・研究者に必要な基本的な教養と倫理観を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学の課題を論理的に思考、判断して解決するための能力を持ち、自分の考えや課題の検討結果などを他者に的確に伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学に関する課題に対し、主体性を持って多様な人々と協働して取り組むことができる。 |
| 建築デザイン | <ul style="list-style-type: none"> ○未来へ繋がる建築を実現できる高度な専門知識と国際的な場で活躍できる高い能力の習得を目指している人 ○技術の分かるデザイナー、デザインの分かる高度専門職業人および研究者を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識の上に建築全般に関わる専門知識を有している。 ○地球環境に配慮した建築、地域・都市の計画、設計、施工、保全、再生などの基本的技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○国際的および持続可能性の視点をもって様々な課題を抽出し、地球環境に配慮しながら解決方法を企画・立案し、自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域や組織の中で他者と協働して相互に啓発しあいながら問題解決に取り組む力を身につけている。 ○自律的・継続的に学び続ける意欲を持ち、社会的責任感と倫理観のもと、問題解決に向けて積極的・主体的な行動力を身につけている。 |

●情報工学専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|--------|---|--|--|---|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 計算機科学 | <p>○人工知能、画像処理、制御理論、情報ネットワーク、情報セキュリティ、および、データサイエンスに関する高度な専門知識と技能の習得を目指している人</p> <p>○国際的な場で活躍できる高い能力を身につけた専門職業人および研究者を目指している人</p> | <p>○計算機科学を学ぶために必要な、人工知能、画像処理、制御理論、情報ネットワーク、情報セキュリティ、および、データサイエンスに関する基本的な知識・技能を身につけている。</p> <p>○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力、情報を読み解く力、表現力を身につけている。</p> | <p>○人工知能、画像処理、制御理論、情報ネットワーク、情報セキュリティ、および、データサイエンスに関する課題を解決するために必要な思考力と判断力を持ち、思考・判断の過程と導かれた結論を表現する能力を身につけている。</p> | <p>○人工知能、画像処理、制御理論、情報ネットワーク、情報セキュリティ、および、データサイエンスに関する課題について、地域や組織の中で多様な人々と主体的にコミュニケーションをとり、協働して学びながら課題の解決に取り組む態度を持っている。</p> |
| 融合システム | <p>○人工知能、集積システム、ロボティクス、ソフトウェア、医用工学・生体情報処理、自然言語処理、および、データサイエンス、また、これらを融合したシステムに関する高度な専門知識と技能の習得を目指している人</p> <p>○国際的な場で活躍できる高い能力を身につけた専門職業人および研究者を目指している人</p> | <p>○人工知能、集積システム、ロボティクス、ソフトウェア、医用工学・生体情報処理、自然言語処理、および、データサイエンス、また、これらを融合したシステムに関する高度な専門知識を学ぶために必要な基本的な知識・技能を身につけている。</p> <p>○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力、情報を読み解く力、表現力を身につけている。</p> | <p>○人工知能、集積システム、ロボティクス、ソフトウェア、医用工学・生体情報処理、自然言語処理、および、データサイエンス、また、これらを融合したシステムに関する課題を解決するために必要な思考力と判断力を持ち、思考・判断の過程と導かれた結論を表現する能力を身につけている。</p> | <p>○人工知能、集積システム、ロボティクス、ソフトウェア、医用工学・生体情報処理、自然言語処理、および、データサイエンス、また、これらを融合したシステムに関する課題について、地域や組織の中で多様な人々と主体的にコミュニケーションをとり、協働して学びながら課題の解決に取り組む態度を持っている。</p> |

1. 実施日程

| | |
|-------|--|
| 出願期間 | 2026年7月17日(金)～7月24日(金) 必着 ※出願資格の事前審査は2026年6月18日(木) 必着 |
| 試験日 | 2026年8月25日(火) (試験開始時刻は11～13 ページ参照) 集合時間：筆記試験は試験開始時刻 30 分前 口頭試問・面接は試験開始時刻 20 分前 ※災害等で試験を予定どおりに実施できない場合は、試験日程の変更を行う可能性があります。試験日程の変更を行う場合は本学のホームページにてお知らせします。 https://www.kitakyu-u.ac.jp/entrance-exam/graduate/env-info.html |
| 試験会場 | 北九州市立大学 ひびきのキャンパス (北九州市若松区ひびきの1番1号) |
| 合格発表日 | 2026年9月4日(金) |



2. 募集人員

◆2026年10月入学

| 研究科名 | 専攻名 | 一般選抜 | 社会人特別選抜 |
|-----------|----------|------|---------|
| 国際環境工学研究科 | 環境システム専攻 | 若干名 | 若干名 |
| | 環境工学専攻 | 若干名 | 若干名 |
| | 情報工学専攻 | 若干名 | 若干名 |

◆2027年4月入学

| 研究科名 | 専攻名 | 一般選抜 | 社会人特別選抜 |
|-----------|----------|--------------------|---------|
| 国際環境工学研究科 | 環境システム専攻 | (推薦選抜と合わせて) 50名 | 若干名 |
| | 環境工学専攻 | (推薦選抜と合わせて) 50名 | 若干名 |
| | 情報工学専攻 | (推薦選抜と合わせて) 40名 | 若干名 |

3. 出願資格

◆2026年10月入学

一般選抜

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者又は2026年9月30日までに大学を卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は2026年9月30日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2026年9月30日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2026年9月30日までに修了見込みの者
- (5) 外国の学校等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2026年9月30日までに授与される見込みの者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2026年9月30日までに修了見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程（学校教育法第百二十五条の二第一項に規定する特定専門課程をいう。以下同じ。）における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 本研究科委員会において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年9月30日までに22歳に達する者 ※

※出願資格（9）によって出願しようとする場合は事前に出願資格審査を行います。

社会人特別選抜

教育機関又は研究機関・官公庁・企業等（青年海外協力隊、NGO・NPO等における国際協力活動を含む）において、2026年9月30日で2年以上の専門に関する勤務経験を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程（学校教育法第百二十五条の二第一項に規定する特定専門課程をいう。以下同じ。）における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 本研究科委員会において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学

力があると認めた者で、2026年9月30日までに24歳に達する者 ※
※出願資格（9）によって出願しようとする場合は事前に出願資格審査を行います。

◆2027年4月入学

一般選抜

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者又は2027年3月31日までに大学を卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は2027年3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2027年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2027年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 外国の学校等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2027年3月31日までに授与される見込みの者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2027年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程（学校教育法第百二十五条の二第一項に規定する特定専門課程をいう。以下同じ。）における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 本研究科委員会において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに22歳に達する者 ※

※出願資格（9）によって出願しようとする場合は事前に出願資格審査を行います。

社会人特別選抜

教育機関又は研究機関・官公庁・企業等（青年海外協力隊、NGO・NPO等における国際協力活動を含む）において、2027年3月31日で2年以上の専門に関する勤務経験を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程（学校教育法第百二十五条の二第一項に規定する特定専門課程をいう。以下同じ。）における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(9) 本研究科委員会において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者 ※

※出願資格（9）によって出願しようとする場合は事前に出願資格審査を行います。

【出願資格の事前審査について】 ※出願資格（9）に該当する者

本研究科委員会が行う出願資格審査は、出願前に個別に行います。出願資格（9）に該当する方は、以下の要領で必要書類を提出してください。ただし、提出前に必ず希望する研究指導教員と連絡をとってください。希望する研究指導教員についての相談は 20 ページの《各専攻における履修コースの教育研究内容・研究指導教員》を参照してください。

ア 提出書類 ※提出書類の説明は 8 ページの提出書類参照

○ 出願資格審査申請書（様式 2）

○ 研究領域等希望調査書（様式 1）

○ 入学希望理由書（A 4 サイズ、様式自由）

○ 最終学歴の成績証明書 ※

※日本語及び英語表記でない成績証明書は、必ず日本語または英語に翻訳したものを添付してください。

○ これまでの業績や研究内容等を説明できるもの

○ 入学後指導を希望する本学教員の研究指導調査書 ※

※資源化学システムコース、生命工学コース（バイオシステムコース）志望時のみ、書式任意

イ 審査受付期間

2026 年 6 月 18 日（木）まで

ウ 提出・問い合わせ先

北九州市立大学 事務局 学務課 入学試験係

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1 番 1 号

TEL: 093-695-3340 E-mail: nyushi@kitakyu-u.ac.jp

※日本在住の方：提出書類を窓口持参または郵送（速達簡易書留）にて、審査受付期間内に到着するように発送してください。

※海外在住の方：提出書類を審査受付期間内に EMS 等にて発送してください。

また、原本発送前に、PDF 化した提出書類を審査受付期間内に学務課入学試験係へメールに添付して送信してください。

エ 審査結果の通知

本人にメールにて通知します。

4. 出願手続

日本在住の方は、提出書類を窓口持参または郵送（速達簡易書留）にて、出願期間内に到着するように発送してください。

海外在住の方は、提出書類を一括して封筒（各自で用意してください）に入れ、郵送（EMS等）により出願期間内に到着するように提出してください。また、原本発送（EMS等）前に、PDF化した提出書類を出願期間内に学務課入学試験係へメールに添付して送信してください。

出願前に必ず希望する研究指導教員と連絡をとってください。

希望する研究指導教員についての相談は 20 ページの《各専攻における履修コースの教育研究内容・研究指導教員》を参照してください。

(1) 出願登録

インターネットによる「出願登録」を行います。

出願登録等の手順は、本学ホームページから「インターネット出願」サイトにアクセスして確認してください。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/>

(2) 入学検定料の支払い

入学検定料 30,000 円（別途、サービス利用料 900 円）をお支払いください。

入学検定料の支払手順は、「インターネット出願」サイトで確認してください。

(3) 出願書類の提出

出願登録、入学検定料支払い後、出願書類を提出してください。

(4) 出願期間等

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 出願期間 | 2026年7月17日（金）～7月24日（金）必着 |
| 出願登録・検定料支払期間 | 2026年7月10日（金）～7月24日（金）16:00 |

(5) 受付時間（土曜、日曜、祝日を除く）

（窓口受付）平日：午前8時30分～午後4時00分（最終日は午後5時00分まで）

（郵送）2026年7月25日（土）以降に郵送により到着したものについては、

2026年7月23日（木）までの消印があり、かつ速達簡易書留郵便の場合に限り受理します。

(6) 提出先 北九州市立大学 事務局 学務課 入学試験係

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1番1号

TEL: 093-695-3340 E-mail: nyushi@kitakyu-u.ac.jp

(7) 提出書類

| インターネット出願登録内容の印刷 | |
|------------------|--|
| 出願確認票 | インターネット出願登録後、印刷したもの。 ※縦4cm×横3cmサイズ、上半身、無帽、無背景、正面向きで、出願前3ヵ月以内に撮影したカラー写真の裏面に氏名を記入の上、所定の欄にしっかり貼り付けてください。 |
| 写真票 | インターネット出願登録後、印刷したものに写真を貼り付けてください。貼付写真については『出願確認票』の説明と同じです。 |
| 宛名ラベル | ※郵送の場合のみ インターネット出願登録後、印刷したものを角形2号（角2）封筒に貼り付けてください。 |
| その他必要書類 | |
| 研究領域等希望調査書（様式1） | <u>出願する前に、希望する研究指導教員と連絡をとってから作成してください。</u> |
| 入学希望理由書 | A4サイズで1枚程度、様式自由。必ず氏名・志望専攻・コース名を記入してください。 |

| | |
|---|---|
| <p>出身大学等の 成績証明書</p> | <p>出身大学または在籍している大学等が発行した成績証明書を提出してください。 ※日本語及び英語表記でない成績証明書は、必ず日本語または英語に翻訳したものを添付してください。</p> |
| <p>出願資格を証明する ア.～ウ.のいずれかの 書類</p> | <p>ア. 出身大学等発行の卒業証明書または卒業見込証明書（または在学証明書）（原本または原本証明を提出） ※出身大学等発行の原本を提出できない場合は、代わりに原本から正しく複製されたものであることを出身大学または大使館、公証役場などの公的機関が証明したものを提出してください。 ※日本語及び英語表記でない証明書は、必ず日本語または英語に翻訳したものを添付してください。</p> <p>イ. 学校教育法第 104 条第 7 項の規定による学位取得見込み者は、在籍する専攻科の短期大学長または高等専門学校長の発行する次のいずれかの証明書 （１）専攻科修了見込証明書 （２）学位の授与を申請する予定の証明書</p> <p>ウ. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により既に学位を授与されている者は、学位授与証明書</p> |
| <p>※一般選抜のみ TOEIC(TOEIC L&R)公式認定証、 TOEIC(TOEIC L&R)-IP テストスコアレポート、 TOEFL-iBT スコアレポートのいずれかの 書類</p> | <p>出願時から遡って 24 ヶ月以内に受験して得たものとします。 （「5. 選考方法および試験科目」参照）</p> <p>①TOEIC(TOEIC L&R)公開テストのスコア利用者は、「Official Score Certificate（公式認定証）」の原本と写しを提出してください。</p> <p>②TOEIC(TOEIC L&R)-IP テスト（団体特別受験制度）のスコア利用者は、「スコアレポート（個人成績表）」の原本と写しを提出してください。 ※本学主催または本学大学生協主催のものに限り認めます。 ただし、オンラインテストのスコアは使用できません。</p> <p>③TOEFL-iBT のスコア利用者は、「受験者用スコアレポート」を提出してください。また、ETS アカウントで、指定したコード G321 を選択しスコアの直送を手配してください。</p> <p>【その他】 ※提出された原本は、後日返却します。 ※①～③すべてを提出することも可能ですが、その場合は、提出されたもののうち得点の高いものを採用します。 ※出願時に①～③の提出が間に合わない場合は、代わりにその受験票の写しを提出の上、試験日の 7 日前（土曜、日曜、祝日の場合はその前日）までに、①②の場合は原本と写しを、③の場合は「受験者用スコアレポート」を提出してください。 ※出願時にスコアを提出しているものに限り、試験日の 7 日前（土曜、日曜、祝日の場合はその前日）までに高得点のスコアを提出することで、スコアの更新ができます。</p> |
| <p>※外国籍の方のみ 住民票または パスポートの写し</p> | <p>日本国内在住者：住民票の原本（コピー不可） （出願前 1 ヶ月以内に発行したもので、在留資格及び在留期間が記載されたもの）</p> <p>海外在住者：パスポートの写し （顔写真及び有効期限が記載されたページ）</p> |

| | |
|--------------------------------|---|
| ※社会人特別選抜のみ 在職証明書 | 勤務先が発行したもの（様式任意） ※勤続経験 2 年以上であることが証明できるもの ※日本語または英語以外で記載されている在職証明書は、日本語または英語に翻訳したものを添付してください。 |
|--------------------------------|---|

【出願上の注意】

- ・出願書類に不備がある場合は受理しません。
- ・出願受付後は、いかなる事情があっても出願内容の変更及び入学検定料の返還には応じられません。
- ・虚偽の記載があった場合は、たとえ合格しても入学許可を取り消します。
- ・いったん正当に受理した出願提出書類等は返却できません。
- ・出願資格要件を満たす見込みで受験し合格した者が、次の期間までに所定の要件を満たすことができなかつた場合は、入学許可を取り消します。

2026 年 10 月入学：2026 年 9 月 30 日まで

2027 年 4 月入学：2027 年 3 月 31 日まで

【受験票について】

- ・受験票印刷可能期間：2026 年 8 月 10 日（月）～2027 年 1 月 22 日（金）
- ・受験票は、印刷可能期間中インターネット出願サイトの「申込確認」画面から印刷可能です。A4 サイズの用紙に印刷し、二つ折りにしてください。
- ・試験当日は、印刷した受験票を必ず持参してください。
- ・受験票は、入学手続に必要ですので、大切に保管しておいてください。

【身体に障害を有する場合等の受験上の特別措置について】

身体に障害を有するなど、受験上及び就学上特別な配慮を必要とする入学志願者は、その措置を講ずるための審査が必要となりますので、事前に相談のうえ出願 2 週間前までに必要書類を添えて申し出てください。審査の結果、必要と判断された措置の内容を通知しますので、その通知書を添えて出願してください。

《問い合わせ先》 北九州市立大学 事務局 学務課 入学試験係
 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1 番 1 号
 TEL: 093-695-3340 E-mail: nyushi@kitakyu-u.ac.jp

【個人情報の取扱いについて】

本学が所有する個人情報は、公立大学法人北九州市立大学個人情報保護管理規程に基づき適正に取扱い、以下の目的以外で利用すること、または第三者に提供することはありません。

- ・志願者の氏名、生年月日、連絡先などの個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続、調査研究及びこれらに付随する業務の遂行に利用します。
- ・合格者の個人情報は、入学手続者に対する入学前指導、入学後の教務関係、学生支援関係、授業料徴収関係などに関する業務のために利用します。

5. 選考方法および試験科目

【選考方法】

試験科目結果、出願書類等を総合して行います。

なお、社会人特別選抜の選考については、社会人としての経歴・研究歴および研究内容を特に重視した選考を行います。

【試験科目】

◆環境システム専攻

○資源化学システムコース

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 英語（注1） | — |
| 口頭試問・面接（卒業研究のテーマとこれまでの成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注2） | 13：00～ |

（注1）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

（注2）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

《社会人特別選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 口頭試問・面接（これまでの研究成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注） | 10：00～ |

（注）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

○生命工学コース（バイオシステムコース）

バイオシステムコースは、2027年4月より「生命工学コース」へ名称を変更します。

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 英語（注1） | — |
| 口頭試問・面接（卒業研究のテーマとこれまでの成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注2） | 13：00～ |

（注1）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

（注2）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

《社会人特別選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 口頭試問・面接（これまでの研究成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注） | 10：00～ |

（注）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

○環境生態システムコース

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|--|--------|
| 英語（注 1） | — |
| 口頭試問・面接（卒業研究のテーマとこれまでの成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注 2） | 13：00～ |

（注 1）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

（注 2）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

《社会人特別選抜》（注 1）

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 口頭試問・面接（これまでの研究成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注 2） | 10：00～ |

（注 1）志願者数によっては、面接開始時間が変更となる可能性があります。

（注 2）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

◆環境工学専攻

○機械システムコース

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|--------------------------|-------------|
| 英語（注） | — |
| 専門科目（材料力学・機械力学・流体力学・熱力学） | 10：30～12：30 |
| 面接 | 14：00～ |

（注）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

《社会人特別選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---------|--------|
| 口頭試問・面接 | 10：00～ |

○建築デザインコース

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|-------------|--------|
| 英語（注1） | — |
| 口頭試問（注2）・面接 | 14：00～ |

（注1）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

（注2）口頭試問は、建築の専門科目及びこれまでの研究や大学院での研究計画に関連した質疑応答を行います。

※建築計画・設計系の志願者は面接時にポートフォリオ（これまでの課題・コンペ作品や活動記録をファイルにまとめたもの。書式・形式自由）を持参してください。

《社会人特別選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|------------------------------------|--------|
| 口頭試問（注1）・面接 （プロジェクトによる発表形式）（注2） | 10：00～ |

（注1）口頭試問は、これまでの研究や大学院での研究計画に関連した質疑応答を行います。

（注2）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

◆情報工学専攻

○計算機科学コース

○融合システムコース

《一般選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|--|-------------|
| 英語（注1） | — |
| 数学（線形代数、微分・積分、常微分方程式、確率・統計の範囲から出題）（注2） | 10：30～12：30 |
| 面接（注3） | 14：00～ |

（注1）TOEIC(TOEIC L&R)スコアまたは TOEFL-iBT スコアの提出を課します。

（注2）EMaT（工学系数学統一試験）の出題範囲に準じます。

（注3）卒業研究およびそれに関する基礎知識の口頭試問を実施する場合があります。

《社会人特別選抜》

| 試験科目 | 試験時間 |
|---|--------|
| 口頭試問・面接（これまでの研究成果の発表および当大学院での研究計画の発表を含める） （プロジェクトによる発表形式）（注） | 10：00～ |

（注）発表用データ（プレゼンテーション形式と PDF）を USB メモリと PC に入れて持参してください。

6. 試験会場

北九州市立大学 ひびきのキャンパス（北九州市若松区ひびきの1番1号）

※主要交通機関：北九州市営バス、西鉄バス

● JR 折尾駅バス停より乗車（約20分）⇒ 学研都市ひびきのバス停下車




7. 受験上の注意

- (1) 受験には必ず受験票を持参してください（受験票は2026年8月10日（月）から印刷可能）。
- (2) 遅刻は、試験開始後20分までに入室した者に限り認めます。ただし、面接の遅刻は認めません。
- (3) 定期に運行している公共交通機関の大幅な遅れにより試験開始時刻に遅刻した場合は、所定の試験時間を確保して試験を行います。その際、公共交通機関を利用したことの証明のため、乗車時刻、到着時刻等をあらかじめメモしておいてください。
- (4) 筆記具、腕時計（計算機能、翻訳機能、辞書機能等の多機能時計は厳禁）を持参してください。貸し出しは一切できません。
- (5) 自家用車での来場は固くお断りします。
- (6) 試験当日は、キャンパス内の案内表示に従ってご来場ください。

8. 合格発表

以下の日時に、合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者のみに合格通知書を送付します。なお、受験者本人であっても、電話による可否に関する照会には一切応じられません。

| | |
|--------|--|
| 合格発表日時 | 2026年9月4日（金）午前10時頃 |
| 合格発表場所 | 北九州市立大学ホームページ https://www.kitakyu-u.ac.jp/entrance-exam/pass-information.html |



9. 入学手続

入学手続に関する詳細については「合格通知」送付の際にお知らせします。

| | |
|-------------------|------------------------|
| 2026年10月入学者入学手続期間 | 2026年9月7日（月）～9月10日（木） |
| 2027年4月入学者入学手続期間 | 2027年1月19日（火）～1月22日（金） |

- (注1) いったん納入された入学金は、いかなる理由があっても返還できません。
- (注2) 期間内に入学手続を完了しなかった場合は、入学辞退として取扱います。理由のいかに問わず、入学手続期間の延長は行いません。
- (注3) 期間内に、入学金の納入、必要書類の提出を完了した者に入学を許可します。
- (注4) 入学手続には、受験票が必要です。大切に保管しておいてください。

10. 入学に関する経費

| 種 別 | 金 額 (注1) | 備 考 |
|---------------|--------------------|--------------------|
| 入 学 金 | 北九州市内居住者 282,000 円 | (注2) |
| | 北九州市外居住者 423,000 円 | |
| 同 窓 会 費 | 50,000 円 | 本学卒業生で、既に納めている方は不要 |
| 後 援 会 費 | 20,000 円 | (注3) |
| 学生教育研究災害傷害保険料 | 2 ヶ年分 1,750 円 | |
| 学研災付帯賠償責任保険料 | 2 ヶ年分 680 円 | |

(注1) 経費は現行(2026年度入学者)の金額です。変更されることがあります。

(注2) 北九州市内居住者とは、入学する本人又はその配偶者もしくは2親等内の親族が、入学の前年度において北九州市の市民税納税義務者(又は、市民税非課税者)であり、かつ入学金納入のときまで引き続き北九州市内に住所を有する者をいいます。

なお、「入学の前年度において北九州市の市民税納税義務者(又は、市民税非課税者)」であるためには、2026年10月入学者は2025年1月1日現在、2027年4月入学者は2026年1月1日現在北九州市に在住していることが必要です。

※同窓会費・後援会費・保険料については、入学の必須条件ではありません。

(注3) 本学学部在籍中に後援会費を納めた人が、引き続き本学の博士前期課程に入学する場合の後援会費は15,000円です。

11. 授業料

年間授業料 535,800 円

- (1) 現行の金額です。在学中に授業料及び納入方法等の改定が行われた場合は、改定時から適用されます。
- (2) 授業料は、年間2期の分割納入です。納入期限日(当日が金融機関休業日の場合は翌営業日)に口座振替で納入していただきます。

12. 長期履修学生制度

国際環境工学研究科では、社会人学生の支援として長期履修学生制度を導入しています。長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情によって、標準修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修する事を認める制度です。博士前期課程においては2年・博士後期課程においては3年を限度とし、1年単位で延長が認められます。

この制度を適用する学生の授業料総額は、標準修業年限で卒業する学生が納める授業料総額と同額です。

13. 安全保障輸出管理について

北九州市立大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「北九州市立大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。

規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合があります。

14. その他

《入学に際しての留意事項》

入学手続後に在留資格が「留学」でない場合は、速やかに法務省入国管理局で在留資格を「留学」に変更してください。なお、在留資格が「留学」でない場合は、留学生に対する各種奨学金の対象にならないことがあります。

《授業科目の概要》 2027年4月入学者

※2026年10月入学者は31ページ以降参照

博士前期課程 修了に必要な単位は30単位以上

《内訳》

- ・ 共通科目から4単位以上
- ・ 専門科目から18単位以上
- ・ 特別研究科目8単位（特別研究）

【各専攻共通科目】

| 《共通科目》（各2単位） | |
|--------------------------|------------------|
| 企業環境マネジメント論 | 環境原論 |
| 知的財産の生産と活用 | 起業家精神とスタートアップ |
| Academic Presentation I | 学外特別研修（インターンシップ） |
| Academic Presentation II | アジアの環境問題 |
| 実践技術者倫理 | グリーンテクノロジー |

【環境システム専攻】

| | | |
|-----------------------|----------------------|--------------|
| 資源化学システム | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 資源化学講究Ⅰ (1単位) | 環境反応工学 |
| | 資源化学講究Ⅱ (1単位) | 高分子材料化学 |
| | 資源化学講究Ⅲ (1単位) | 環境保全化学 |
| | 資源化学講究Ⅳ (1単位) | 資源循環技術 |
| | エネルギー・反応化学 | 地球環境プロセス工学 |
| | 化学反応工学 | 資源化学システム特論Ⅰ |
| | 分光分析論 | 資源化学システム特論Ⅱ |
| 固体材料化学 | | |
| 生命工学 | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 環境微生物学 | 生体医工学 |
| | 高分子物性論 | 生物無機化学 |
| | バイオシミュレーション | 原生生物学 |
| | 生体材料論 | 分子細胞生物学 |
| | 生態システム論 | 環境リスク学 |
| | 生物センサー工学 | 環境情報システム論 |
| | 応用微生物学 | バイオインフォマティクス |
| 環境応答生理学 | | |
| 環境生態システム | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 環境経済論 | 環境微生物学 |
| | エネルギー環境工学 | 応用微生物学 |
| | 環境経営システム論 | 環境応答生理学 |
| | 環境情報システム論 | 生態システム論 |
| | 都市環境評価・計画論 | 持続可能発展論 |
| リスクマネジメント | | |
| 《特別研究科目》 (8単位) | | |
| 特別研究 | | |

【環境工学専攻】

| | | |
|----------------|----------------------|--------------------|
| 機械システム | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 流体力学特論 | 機械要素設計特論 |
| | エネルギー工学特論 | 機械力学特論 |
| | 熱力学特論 | 先端工学特論 |
| | システム制御工学特論 | 再生可能エネルギー事業評価論 |
| | 金属加工学特論 | プロジェクトマネジメント |
| | 材料力学特論 | |
| 建築デザイン | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 建築エンジニアリング・デザインプログラム | 耐震構造学 |
| | 環境共生都市づくり論 | 環境設備システム論 |
| | 世代間建築特論 | 建築・都市エネルギー論 |
| | 環境空間設計学 | 音と光の環境デザイン特論 |
| | 建築生産管理論 | 熱と空気の環境デザイン特論 |
| | 環境調和型材料工学特論 | 建築実務インターンシップ (4単位) |
| | 構造解析学 | 低炭素建築都市デザイン論 |
| | 建築材料特論 | 建築・都市計画特論 |
| 建築構造設計 | 国際建築工学・設計・技術特論 | |
| 《特別研究科目》 (8単位) | | |
| 特別研究 | | |

【情報工学専攻】

| | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 計算機科学 | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | 情報セキュリティ論 | ネットワークアーキテクチャ |
| | パターン認識応用 | 画像処理 |
| | 適応信号処理 | 情報通信論 |
| | 動的システム論 | 情報ネットワーク論 |
| | ソフトコンピューティング | |
| 融合システム | 《専門科目》 (各2単位) | |
| | システム制御理論 | 医用工学基礎 |
| | 組み合わせ最適化論 | テスト容易化設計 |
| | ソフトウェア検証論 | VLSI 物理設計 |
| | ソフトウェア論 | 組込みハードウェア |
| | 視覚情報処理 | 信号解析 |
| | 感覚測定概論 | 自然言語処理 |
| 行動解析 | | |
| 《特別研究科目》 (8単位) | | |
| 特別研究 | | |

《各専攻における履修コースの教育研究内容・研究指導教員》

希望する研究指導教員については、各コース長にご相談ください。
コース長のメールアドレスは以下の通りです。

《問い合わせ先》

○環境システム専攻

| | |
|---------------------------|------------------------|
| 資源化学システムコース | shigen@kitakyu-u.ac.jp |
| 生命工学コース (バイオシステムコース) ※ | biosys@kitakyu-u.ac.jp |
| 環境生態システムコース | envsys@kitakyu-u.ac.jp |

※バイオシステムコースは、2027年4月より「生命工学コース」へ名称を変更します。

○環境工学専攻

| | |
|-----------|--------------------------|
| 機械システムコース | kikai@kitakyu-u.ac.jp |
| 建築デザインコース | kenchiku@kitakyu-u.ac.jp |

○情報工学専攻

| | |
|-----------|------------------------|
| 計算機科学コース | jyohou@kitakyu-u.ac.jp |
| 融合システムコース | |

環境システム専攻

【資源化学システムコース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|------------------------------|--|
| 秋葉 勇 AKIBA Isamu | 高分子材料の合成に関する研究 合成高分子の構造と物性に関する研究 |
| 今井 裕之 IMAI Hiroyuki | ナノスケールの空間を機能化した材料の開発および化学反応への応用 多様な炭素資源から化学品製造のための反応プロセスの設計 |
| 郡司 貴雄 GUNJI Takao | 燃料電池用電極触媒の開発、電気化学的 CO ₂ 還元反応、光触媒用助触媒の研究 |
| 菅原 一輝 SUGAWARA Kazuki | 生物機能を活用した汚染環境の浄化に関する研究 生物-環境間の相互作用および元素・物質動態の解明 |
| 寺嶋 光春 TERASHIMA Mitsuharu | 水資源循環利用プロセスの研究開発 用排水処理システムのモデル化とシミュレーション |
| 寺本 高啓 TERAMOTO Takahiro | 超短パルスレーザーを用いた超高速分光による次世代太陽電池、スピントロニクスデバイスの光誘起超高速ダイナミクスの解明 |
| 西浜 章平 NISHIHAMA Syouhei | 有価廃棄物からのレアメタルの分離回収プロセス 水中の有害汚染物質の分離除去プロセス |
| 三野 泰志 MINO Yasushi | 資源・環境に関わる粒子分散系の流動・輸送現象を対象とした実験と数値シミュレーション |
| 宮脇 崇 MIYAWAKI Takashi | 化学物質の網羅的分析手法の開発 化学物質の環境動態及びリスク評価に関する研究 |
| 山本 勝俊 YAMAMOTO Katsutoshi | 多孔質材料の開発と触媒への応用 有機-無機ハイブリッド型多孔体の創製 |
| 山本 雅納 YAMAMOTO Masanori | 炭素材料化学、触媒化学、電解合成化学を基盤とした合成および反応理解に関する研究 |
| 李 丞祐 LEE Seung-Woo | 機能性ナノ材料、先端計測デバイスの開発 生体低分子・揮発性代謝物に基づいたナノ医療工学 |

【生命工学コース（バイオシステムコース）】

バイオシステムコースは、2027年4月より「生命工学コース」へ名称を変更します。

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|-----------------------------|---|
| 磯田 隆聡 ISODA Takaaki | 新しいバイオセンサーの開発と応用：1. 食品衛生のための微生物センサ、2. ウイルス・感染症の迅速検査 |
| 伊藤 理彩 ITO Lisa | 1. サンゴ礁の島における重金属汚染などの環境問題 2. 製品中に含まれる化学物質の国境を越えた移動（大気を媒介とした越境汚染も含む）と生態系への影響 3. 環礁の表層堆積物の土壌化と硝化細菌の関係 |
| 上江洲 一也 UEZU Kazuya | 生物の特異的応答を利用した新規バイオセンサーの創製 細胞内情報経路を標的としたリン酸化タンパク質分離材料の創製 計算化学的アプローチによる分子認識材料の設計 生態系への影響を大幅に低減した林野火災用泡消火剤の開発 |
| 河野 智謙 KAWANO Tomonori | 環境と生物との相互作用と光合成（天然・人工）をテーマに国際連携・産学連携に取り組んでいます。 |
| 木原 隆典 KIHARA Takanori | 骨石灰化形成機構の解明 平滑筋細胞の形質転換機構の解明 細胞の物理的性質の解析とそのシミュレーション |
| 土谷 享 TSUCHIYA Akira | 材料表面での細胞機能制御 in vitro 骨粗鬆症モデルの構築 新規インプラント材の開発 |
| 中澤 浩二 NAKAZAWA Kohji | 細胞パターンニング技術および細胞マイクロチップの開発 培養微小環境と細胞分化特性の解析 |
| 中野 光議 NAKANO Mitsunori | 1. 淡水二枚貝類が関与する生物間相互作用による生物多様性の形成・維持機構の解明 2. 水生生物の生態を踏まえた環境配慮型の水田農法および農業水路の開発 3. 河川における淡水魚類の生活史の解明と保全に関する研究 |
| 望月 慎一 MOCHIZUKI Shinichi | 薬物送達システム（DDS）の開発 新規がんワクチンの開発 アジュバントに関する研究 |
| 森田 洋 MORITA Hiroshi | 地域農作物の生理的機能性と新規用途開発 室内カビ・ダニの新規制御法に関する研究 混合培養麹による清酒醸造に関する研究 液体麹による酒類醸造に関する研究 |
| 柳川 勝紀 YANAGAWA Katsunori | 難培養性微生物の生理・生態学 生物地球化学的物質循環 環境動態解析 |

【環境生態システムコース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|---------------------------------|---|
| 浦西 克維 URANISHI Katsushige | 大気質モデルや PMF モデル等を用いた大気環境についての調査・研究 |
| 加藤 尊秋 KATO Takaaki | 環境政策の評価、社会的なリスク削減のための管理、教育、訓練手法 |
| 辻井 洋行 TSUJII Hiroyuki | 地球・自然環境問題の動向を踏まえた倫理的経営理論 |
| 藤山 淳史 FUJIYAMA Atsushi | 消費者行動・SDGs 評価に関する研究 エネルギーマネジメントシステムに関する研究 環境分野での情報技術の活用に関する研究 |
| 松本 亨 MATSUMOTO Toru | 循環型社会形成に向けた都市・社会システムの設計・評価に関する研究 アジアの都市環境マネジメントに関する研究 |

環境工学専攻

【機械システムコース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|-------------------------------|---|
| 池田 卓矢 IKEDA Takuya | ネットワーク系の最適化理論およびデータ駆動制御理論に関する研究 |
| 井上 浩一 INOUE Koichi | 次世代宇宙機用沸騰・二相流熱システムに関する基礎研究 発電用熱交換器の高性能化に関する研究 電子機器の冷却技術に関する研究 |
| 岡田 伸廣 OKADA Nobuhiro | 画像を用いる三次元計測を中心としたロボット・メカトロニクス技術の 開発とその応用に関する研究 複数の自己組織化マップの協調学習に関する研究 |
| 小田 拓也 ODA Takuya | 再生可能エネルギーの大量導入に伴う需給調整課題に関する研究 エネルギー需要を能動化するエネルギーマネジメント技術の開発 |
| 片山 雄介 KATAYAMA Yusuke | 相変化を伴う混相流および非定常流動現象に関する基礎的研究 エネルギー変換・再生可能エネルギーシステムへの応用 |
| 佐々木 卓実 SASAKI Takumi | 構造非線形および材料非線形を利用した除振要素に関する研究 機械・構造物のための振動抑制技術の開発 |
| 趙 昌熙 CHO Changhee | 生体機械工学、バイオトライボロジーに関する研究 臨床用人工関節の長寿命化・高性能化に関する研究 |
| 長 弘基 CHO Hiroki | 形状記憶合金の物性研究 形状記憶合金を用いたアクチュエータおよび医療・福祉機器の研究開発 |
| 仲尾 晋一郎 NAKAO Shinichiro | 衝撃波と境界層の干渉流れ場の CFD 解析に関する研究 衝撃波を伴う流れ場へのレーザー干渉法の適用に関する研究 |
| 宮國 健司 MIYAGUNI Takeshi | 垂直軸マイクロ風車の高性能化に関する研究 可動式堰を付加した双胴式水面清掃船に関する研究 金属材料の摩擦攪拌接合に関する研究 |
| 宮里 義昭 MIYAZATO Yoshiaki | 超音速流れに対するレーザー干渉法とレインボーシュリーレントモグラ フィ計測法の適用に関する研究 |
| 村上 洋 MURAKAMI Hiroshi | AX 等の情報技術と先端加工・計測技術の融合による精密加工・計測技 術の高度化に関する研究 |

【建築デザインコース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|--------------------------------|---|
| 安藤 真太郎 ANDO Shintaro | 住環境による疾病予防効果を踏まえた経済効果検証 オフィスのデザインと運用最適化による知的生産性向上効果の検証 |
| 上野 貴広 UENO Takahiro | コミッショニングやファインチューニングによる建築物の脱炭素化 ゼロ・エネルギー・コミュニティへのロードマップ設計 バイオフィリック・デザイン空間の環境評価 IoT や AI カメラを用いた外付け EMS の開発 |
| 城戸 將江 KIDO Masae | 鋼およびコンクリート充填鋼管構造の耐震設計法 鋼およびコンクリート充填鋼管構造の安定設計法 |
| 白石 靖幸 SHIRAISHI Yasuyuki | 建築都市空間における温熱・空気環境制御 建築設備一体化技術の最適制御 複合物理モデリングを活用した建築設備の最適設計 |
| 陶山 裕樹 SUZYAMA Hiroki | 産業廃棄物の建材リサイクル コンクリートの物性に影響を与える粉体混和材の因子 コンクリートの外観の定量化 |
| 高巢 幸二 TAKASU Koji | カーボンネガティブクリンカーフリーコンクリートの研究 都市ごみ焼却灰の無害化とジオポリマー活性フィラーとしての利用性に関する研究 バクテリアによる自己治癒型低炭素コンクリートに関する研究 再生材料等を複合混合した高性能コンクリートの研究 建築材料としての副産物系粉体の改質技術の開発 |
| 寺西 正輝 TERANISHI Masaki | 鋼構造および木質系構造の構造解析 機械学習の構造工学問題への応用 光学技術による力学的特性の評価 |
| デワンカー バート DEWANCKER Bart | 都市計画に関する研究 環境共生建築・都市デザインに関する研究 ランドスケープ、都市及び建物緑化に関する研究 |
| 福田 展淳 FUKUDA Hiroatsu | 建築デザイン、歴史的建築物に関する研究 建築計画学、都市計画学 低環境負荷のための建築設計・都市環境設計 |
| 福田 裕美 FUKUDA Yumi | 生体リズムを整える光のスペクトルデザインに関する研究 照明と視覚の発達との関係性についての研究 パブリックスペースの照明計画に関する研究 |
| 保木 和明 HOKI Kazuaki | 鉄筋コンクリート構造 既存建物の耐震性評価法・補強設計法 耐震工学 |

情報工学専攻

【計算機科学コース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|-----------------------------|--|
| 伊藤 友輔 ITO Yusuke | 次世代ネットワークアーキテクチャにおける資源割当・管理、スケジューリングに関する研究 |
| 上原 聡 UEHARA Satoshi | 情報理論、符号理論、情報セキュリティ：数学的背景に基づく符号の構成法や性能評価に関する研究 |
| 古閑 宏幸 KOGA Hiroyuki | コンピュータネットワークのアーキテクチャや構築・運用技術、トラフィックエンジニアリング技術に関する研究 |
| 孫 連明 SUN Lianming | 制御と信号処理分野において、数学モデルを構築するシステム同定の方法論、制御系設計と適応信号処理への応用に関する研究 |
| 松岡 諒 MATSUOKA Ryo | 数理モデリング、人工知能、機械学習、数理最適化を基盤とした、リモートセンシング、画像処理、医用画像解析、コンピュータビジョン、信号処理、データ解析、異常検知に関する研究 |
| 山崎 恭 YAMAZAKI Yasushi | 生体認証（バイオメトリクス）を主要テーマとした、安心・安全・便利をキーワードとする情報セキュリティ、パターン認識に関する研究開発 |
| 楊 光 YANG Guang | フィジカル AI に基づくロボット行動生成、知覚・推論・意思決定を統合した知能システム設計、モジュラーロボットおよびフィールドロボットの自律制御に関する研究 |

【融合システムコース】

| 教員名 | 研究テーマ・領域 |
|------------------------------|---|
| ゴー チュイリン GOH Chooiling | 自然言語処理分野における生成 AI の応用に関する研究 |
| 佐藤 雅之 SATO Masayuki | 心理物理学の実験手法を用いた人間の視覚情報処理メカニズムの解明、特に、両眼立体視による空間知覚に関する研究 |
| 杉原 真 SUGIHARA Makoto | VLSI や組込システムを対象とした設計技術に関する研究、及び自動車 IT システム設計技術に関する研究 |
| 高島 康裕 TAKASHIMA Yasuhiro | 最適化アルゴリズム、VLSI 設計自動化技術、量子アルゴリズムを含む高性能計算アルゴリズム実装 |
| 玉田 靖明 TAMADA Yasuaki | VR 技術開発とスマート視機能検査のための心理物理学的な研究 |
| 中武 繁寿 NAKATAKE Shigetoshi | アナログとデジタル混載集積回路の自動設計技術、低電力化技術、及び医療・防災分野におけるセンサシステムの集積技術に関する研究 |
| 西田 健 NISHIDA Takeshi | ロボットの知能化技術、仮想空間と現実空間の連動により AI を高速化する技術、機械学習によるロボット制御技術に関する研究 |
| 早見 武人 HAYAMI Takehito | 電気・光を用いた神経機能に関わる医用検査、手術支援、治療技術、及び人間の行動特性を調べるための心理学機器の研究 |
| 藤澤 隆介 FUJISAWA Ryusuke | 群知能および群ロボットの制御に関する研究 生物の外界認識機能に関する研究 機械学習を用いた識別に関する研究 |
| 松田 鶴夫 MATSUDA Tsuruo | 生体情報獲得 メカトロニクス制御 脳神経磁気・電気刺激 リハビリテーション応用技術 等に関する研究 |
| 山崎 進 YAMAZAKI Susumu | 1. 半導体設計 2. ソフトウェア |

《アドミッションポリシー》 2026年10月入学者

●環境システム専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|----------|--|--|---|---|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 資源化学システム | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする科学分野に関心を持ち、大学院で修得する知識・論理を基に、化学・環境技術者としてより高い視点から活躍を志す人 ○大学で学んだ知識を基礎とし、大学院での高度かつ専門的な知識・論理の修得を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○より専門的な科学技術を学ぶ上で基礎となる化学・環境工学に関する知識を身につけている。 ○エネルギー・環境・資源に関するより多様かつ専門的な学修のため、大学までに得た知識を応用できる力を身につけている。 ○日本語あるいは英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする諸分野における課題の本質を見抜き、その重要度・緊急性に応じて、解決策を講じる優先順位を判断する力を身につけている。 ○エネルギー・環境・資源をはじめとする諸分野における課題への解決策を、論理的に複数の可能性を考慮した上で導き、それを他者に明確に伝える力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー・環境・資源をはじめとする科学分野に強い関心を持ち、多角的・総合的な視点から、自己の向上を志して、積極的に学ぶ意欲と行動力を持っている。 ○自己の専門・非専門を問わず、他者との協議・討論を通して課題解決の手法を見出し、協働により課題解決ができる力を身につけている。 |
| バイオシステム | <ul style="list-style-type: none"> ○化学と生物学を基盤とした、環境・生命・医療などに関する高度な専門的知識の習得を目指している人 ○環境・生命・医療などの分野における国際的な場で活躍できる高い能力を身につけ、社会に貢献したい人 | <ul style="list-style-type: none"> ○バイオシステムに関する専門的知識を獲得する上で必要な生命科学、環境科学に関する基礎学力を有している。 ○化学・生物・物理実験・調査、数理解析などを通して、環境、社会や生態系に配慮しながら技術開発を進める基本的技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境・生命・医療などの分野における様々な課題を理解し、思考発展させ、得られた結論を適切な方法で表現する能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境・生命・医療などの分野における諸問題に対して、他者と協力して相互に啓発し合いながら課題解決を図る姿勢を有している。 ○多様かつグローバルな視点から、社会に貢献しようとする意欲を持っている。 |
| 環境生態システム | <ul style="list-style-type: none"> ○地域やアジア諸国をはじめとする発展途上国における環境社会システム構築のために活躍できる高度専門職業人および研究者を目指している人 ○持続可能な社会構築のため高度な専門的知識の習得を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境調査、環境計画、生態系管理の基礎となる自然科学および数理分野の基礎的学力を有し、環境社会や自然共生社会の構築に寄与できる創造的・実践的知識の素養を持っている。 ○社会・環境フィールド調査、環境シミュレーション、環境マネジメントに関わる専門的スキル・手法を使って問題を解決する能力の素養を持っている。 ○日本語あるいは英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○現実の環境問題に柔軟に対応し、地域・国土のみならず国際環境社会の中で広い視野をもって問題に対処できる思考力と判断力の素養を持っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○環境問題に関わる資源、エネルギー、自然生態系、経済、経営などの分野にも関心を持ち、高度な研究を実践する素養を持っている。 ○地域や企業、行政など関係する機関と協力して環境問題の解決に自律的に取り組む素養を持っている。 |

●環境工学専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|--------|--|---|--|--|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 機械システム | <ul style="list-style-type: none"> ○環境負荷の低減と経済発展の両立を“持続可能な開発”と捉えるとともに、グローバルな視点を持って活躍できる機械技術者・研究者を目指している人 ○機械工学に関する高度な専門性を身につけるための努力を惜しまない人 ○創造力と自主性を備え、先端研究分野に挑戦する意欲を持っている人 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学分野の基礎科目を修得しており、より専門的な知識と技術を高めるための基礎学力と適性を有している。 ○機械技術者・研究者に必要な基本的な教養と倫理観を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学の課題を論理的に思考、判断して解決するための能力を持ち、自分の考えや課題の検討結果などを他者に的確に伝えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○機械工学に関する課題に対し、主体性を持って多様な人々と協働して取り組むことができる。 |
| 建築デザイン | <ul style="list-style-type: none"> ○未来へ繋がる建築を実現できる高度な専門知識と国際的な場で活躍できる高い能力の習得を目指している人 ○技術の分かるデザイナー、デザインの分かる高度専門職業人および研究者を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識の上に建築全般に関わる専門知識を有している。 ○地球環境に配慮した建築、地域・都市の計画、設計、施工、保全、再生などの基本的技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力を有している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○国際的および持続可能性の視点をもって様々な課題を抽出し、地球環境に配慮しながら解決方法を企画・立案し、自らの思考・判断のプロセス、結論を適切な方法で表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域や組織の中で他者と協働して相互に啓発しあいながら問題解決に取り組む力を身につけている。 ○自律的・継続的に学び続ける意欲を持ち、社会的責任感と倫理観のもと、問題解決に向けて積極的・主体的な行動力を身につけている。 |

●情報工学専攻

| コース名 | 求める学生像 | 求める能力 | | |
|--------|---|--|--|---|
| | | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力等の能力 | ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 計算機科学 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算機科学、特に、人工知能、映像・画像処理、ネットワーク、情報セキュリティ、モデリングに関する高度な専門知識と技能の習得を目指している人 ○国際的な場で活躍できる高い能力を身につけた専門職業人および研究者を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算機科学を学ぶために必要な信号処理、情報通信、計測制御、電子・集積回路、ソフトウェア、データ科学などの基本的な知識・技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力、情報を読み解く力、表現力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算機科学分野の課題を解決するために必要な思考力と判断力を持ち、思考・判断の過程と導かれた結論を表現する能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○計算機科学分野の課題について、地域や組織の中で多様な人々と主体的にコミュニケーションをとり、協働して学びながら課題の解決に取り組む態度を持っている。 |
| 融合システム | <ul style="list-style-type: none"> ○電子・集積回路、計測制御、ソフトウェア、また、これらの融合系であるロボット、生体情報システムに関する高度な専門知識と技能の習得を目指している人 ○国際的な場で活躍できる高い能力を身につけた専門職業人および研究者を目指している人 | <ul style="list-style-type: none"> ○電子・情報・計測制御工学の融合分野を学ぶために必要な信号処理、情報通信、計測制御、電子・集積回路、ソフトウェア、データ科学などの基本的な知識・技能を身につけている。 ○日本語、英語に基づいたコミュニケーション能力、情報を読み解く力、表現力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○電子・情報・計測制御工学の融合分野の課題を解決するために必要な思考力と判断力を持ち、思考・判断の過程と導かれた結論を表現する能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○電子・情報・計測制御工学の融合分野の課題について、地域や組織の中で多様な人々と主体的にコミュニケーションをとり、協働して学びながら課題の解決に取り組む態度を持っている。 |

《授業科目の概要》 2026年10月入学者

博士前期課程 修了に必要な単位は30単位以上

《内訳》

- ・ 共通科目と基礎科目から4単位以上。ただし、共通科目から2単位以上
- ・ 専門科目から18単位以上
- ・ 特別研究科目8単位（特別研究）

【各専攻共通科目】

| 《共通科目》（各2単位） |
|--------------------------|
| 企業環境マネジメント論 |
| 知的財産の生産と活用 |
| Academic Presentation I |
| Academic Presentation II |
| 安全倫理（注1） |
| 環境原論 |
| 起業家精神とスタートアップ |
| 学外特別研修（インターンシップ） |

（注1）環境生態システムコースでは、専門科目となります。

【環境システム専攻】

| | |
|-------------|----------------------|
| 資源化学システム | 《基礎科目》（各2単位） |
| | 資源化学システム基礎Ⅰ（化学プロセス） |
| | 資源化学システム基礎Ⅱ（先進マテリアル） |
| | 資源化学システム基礎Ⅲ（環境プロセス） |
| | 《専門科目》（各2単位） |
| | エネルギー化学 |
| | 化学反応工学 |
| | 無機材料工学 |
| | 触媒反応化学 |
| | 分光分析論 |
| | 分離精製工学 |
| | 固体材料化学 |
| | プロセス設計学 |
| | 先端材料システム |
| | 高分子材料化学 |
| | 環境化学 |
| | 大気環境工学 |
| | 資源循環技術 |
| | 水圏環境工学 |
| | 地圏環境修復 |
| | リサイクル工学 |
| | アジアの環境問題 |
| | 省資源衛生工学 |
| 資源化学システム特論Ⅰ | |
| 資源化学システム特論Ⅱ | |
| バイオシステム | 《基礎科目》（各2単位） |
| | バイオシステム基礎Ⅰ（生命材料工学） |
| | バイオシステム基礎Ⅱ（生物生態工学） |
| | 《専門科目》（各2単位） |
| | 環境生物学 |
| | 高分子物性論 |
| | 計算化学 |
| | 生体材料論 |
| | 生態システム論 |
| | 生物センサー工学 |
| | 微生物機能学 |
| | 環境応答生理学 |
| | バイオシステム特別講義 |
| | バイオシステム講究Ⅰ |
| | バイオシステム講究Ⅱ |
| 分子細胞生物学 | |

| | |
|----------|---------------|
| 環境生態システム | 《基礎科目》（各2単位） |
| | 環境生態システム基礎 |
| | 《専門科目》（各2単位） |
| | 環境経済論 |
| | エネルギー環境工学 |
| | 環境経営システム論 |
| | 環境情報システム論 |
| | 都市環境評価・計画論 |
| | 安全倫理 |
| | 健康リスク学 |
| | アジアの環境問題 |
| | 省資源衛生工学 |
| | 環境生物学 |
| | 微生物機能学 |
| | 環境応答生理学 |
| | 生態システム論 |
| | 持続可能発展論 |
| | 《特別研究科目》（8単位） |
| | 特別研究 |

【環境工学専攻】

| | |
|--------|-----------------------|
| 機械システム | 《基礎科目》（各2単位） |
| | 機械システム基礎Ⅰ（エネルギーシステム） |
| | 機械システム基礎Ⅱ（設計加工システム） |
| | 《専門科目》（各2単位） |
| | 流体力学特論 |
| | 燃烧工学特論 |
| | 流動光計測特論 |
| | 伝熱工学特論 |
| | 熱力学特論 |
| | 制御工学特論 |
| | メカトロニクス特論 |
| | 設計工学特論 |
| | 加工学特論 |
| | 材料力学特論 |
| | 機械要素設計特論 |
| | システム工学特論 |
| | 機械力学特論 |
| 先端工学特論 | |
| 建築デザイン | 《基礎科目》（各2単位） |
| | 建築デザイン基礎Ⅰ（居住環境設計学） |
| | 建築デザイン基礎Ⅱ（環境空間構造保全工学） |
| | 建築デザイン基礎Ⅲ（都市建築エネルギー学） |
| | 《専門科目》（各2単位） |
| | 建築デザインプログラム |
| | 環境共生都市づくり論 |
| | 世代間建築特論 |
| | 環境空間設計学 |
| | 建築生産管理論 |
| | 環境調和型材料工学特論 |
| | 構造解析学 |
| | 建築材料特論 |
| | 建築構造設計 |
| | 耐震構造学 |
| | 環境設備システム論 |
| | 建築・都市エネルギー論 |
| | 音と光の環境デザイン特論 |
| | 熱と空気の環境デザイン特論 |
| | 建築エンジニアリングプラクティス |
| | 建築実務インターンシップ（4単位） |
| | 低炭素建築都市デザイン論 |
| | 《特別研究科目》（8単位） |
| 特別研究 | |

【情報工学専攻】

| | |
|-------------------------------|------------------------|
| 《専門科目(コース共通)》 (各 2 単位) | |
| 情報セキュリティ論 | |
| パターン認識応用 | |
| 適応信号処理 | |
| システム制御理論 | |
| 動的システム論 | |
| 組み合わせ最適化論 | |
| スパースモデリング | |
| ソフトウェア工学概論 | |
| ソフトウェア検証論 | |
| ソフトコンピューティング | |
| 組込みソフトウェア | |
| 視覚情報処理 | |
| 感覚測定概論 | |
| 行動解析 | |
| 計算機科学 | 《基礎科目》 (各 2 単位) |
| | 計算機科学基礎 (計算機科学) |
| | 《専門科目》 (各 2 単位) |
| | ネットワークアーキテクチャ |
| | 画像処理 |
| | 情報通信論 |
| | 信号解析 |
| 融合システム | 《基礎科目》 (各 2 単位) |
| | 融合システム基礎 (融合システム) |
| | 《専門科目》 (各 2 単位) |
| | 医用工学基礎 |
| | テスト容易化設計 |
| | VLSI 物理設計 |
| | 移動通信 |
| 組込みハードウェア | |
| 《特別研究科目》 (8 単位) | |
| 特別研究 | |

2026年度10月入学・2027年度4月入学
北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科(博士前期課程)

受験番号
(記入不可)

研究領域等希望調査書

| | |
|-------|--|
| フリガナ | |
| 氏名 | |
| 志望専攻 | |
| 志望コース | |

「本大学院で研究しようとする分野」および「希望する研究指導教員」を記入してください。
(必ず事前に、各コースのメールアドレスに問い合わせてください。)

| | |
|-----------------|--|
| 本大学院で研究しようとする分野 | |
| 希望する研究指導教員名 | |

大学または大学院等で専攻した分野について記入してください。

| | |
|---------------------------|--|
| 大学または大学院等でのゼミまたは専攻した専門分野等 | |
| 指導教員名 | |

(社会人特別選抜志願者は裏面も記入してください。)

《注意》

別紙にて入学希望理由書を作成し、提出してください。
A4 1枚程度、様式自由。必ず志望専攻・コース名を記入してください。

出願資格審査申請書

申請日 年 月 日

2026 年度10月入学・2027年度4月入学 北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科(博士前期課程)

| | | | |
|---|--|---------------|--|
| 入学時期 | <input type="checkbox"/> 4月 <input type="checkbox"/> 10月 | 審査受付期限 | 2026年6月18日(木) |
| 選抜区分 | <input type="checkbox"/> 一般選抜 <input type="checkbox"/> 社会人特別選抜 | | |
| フリガナ *1 | | | 性別 |
| 氏名 *2 | 姓 | 名 | <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 |
| 英字氏名 (外国籍の方は パスポートの アルファベット表記) | | | 写真貼付欄 |
| 生年月日(西暦) | | 国・地域 ※外国籍のみ記入 | |
| 年 | 月 | 日 | 縦4cm×横3cm 上半身、無帽、背景なし、正面向き 最近3か月以内に撮影したもの 写真の裏に氏名を記入し、全面にのりづけ |
| 大学院入学時年齢 | | 歳 | |
| 住所・連絡先 | | | |
| 郵便番号 | | | |
| 住所 | | | |
| 電話番号 | 携帯電話番号 | | |
| メールアドレス | @ | | |

*1 外国籍の方は、使用中のフリガナがあれば記入してください。

*2 外国籍の方は、漢字氏名があれば記入してください。

志望する専攻・コースを選択してください。

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 環境システム専攻 |
| <input type="checkbox"/> 資源化学システムコース |
| <input type="checkbox"/> 生命工学コース(バイオシステムコース) |
| <input type="checkbox"/> 環境生態システムコース |
| <input type="checkbox"/> 環境工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 機械システムコース |
| <input type="checkbox"/> 建築デザインコース |
| <input type="checkbox"/> 情報工学専攻 |
| <input type="checkbox"/> 計算機科学コース |
| <input type="checkbox"/> 融合システムコース |

| 履歴書 | | | |
|-----|---|----|------------------------------|
| 年 | 月 | 年数 | 経歴等(学歴・職歴・研究歴等について記入してください。) |
| 自 | / | | 小学校名(初等教育) ※外国人留学生のみ記入 |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 中学校名(中等教育) ※外国人留学生のみ記入 |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 高等学校名(中等教育) |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 大学・学部・学科・専攻名等(高等教育) |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 大学・学部・学科・専攻名等(高等教育) |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 大学院・研究科・専攻名等(高等教育) |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | 大学院・研究科・専攻名等(高等教育) |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | |
| 至 | / | | |
| 自 | / | | |
| 至 | / | | |

研究成果・報告書・公的資格などこれからの研究の参考となる経歴について記入してください。

| 年 | 月 | タイトル | 備考(論文の概要・認定機関名等) |
|---|---|------|------------------|
| / | | | |
| / | | | |
| / | | | |
| / | | | |
| / | | | |